



®環境省
エコアクション21
認証番号0010347

2024年度版

環境経営レポート

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

発行日：2025年7月1日



おせんちゃん

米沢市マスコット
キャラクター

米沢市は、上杉家家臣で文武兼備の智将として
名高い直江兼続（なおえかねつぐ）ゆかりの地です。

かねたん

米沢市マスコット
キャラクター



ネクスト環境コンサルタント株式会社

〒992-0119 山形県米沢市アルカディア1丁目808番地17

TEL0238-29-0025 FAX0238-29-0015

<http://www.next-enviro.co.jp>



～ 目 次 ～

- 0. SDGs（当社の事業活動に関連するゴールとターゲット）・・・ p1～2
- 1. 環境経営方針・・・ p3
- 2. 組織の概要・・・ p4～5
 - 2-1. 事業者名及び代表者氏名
 - 2-2. 所在地
 - 2-3. 環境管理責任者及び担当者連絡先
 - 2-4. 設立年月日
 - 2-5. 資本金
 - 2-6. 事業活動の内容と対象サイト（認証・登録範囲）
 - 2-7. 事業の規模
 - 2-8. 環境マネジメントシステム実施体制
- 3. 環境経営目標とその実績・・・ p5～15
 - 3-1. 環境負荷の現状（2024年度環境負荷自己チェック結果より）
 - 3-2. 環境経営目標（単年度・中期）と達成状況
 - 3-3. 2025年度の環境経営目標
- 4. 環境経営計画と取組結果並びに次年度の取組内容・・・ p16～17
 - 4-1. 環境経営計画の取組状況の評価（2023年度）
 - 4-2. 2025年度の取組内容
- 5. 環境関連法規等の順守状況，訴訟等の有無・・・ p17
 - 5-1. 適用を受ける環境関連法規等とその順守状況
 - 5-2. 訴訟等の有無
- 6. 代表者による見直しの結果（経営者のコメント）・・・ p18



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



私たちは、SDGsとの関連性を強く意識してEA21の取組を推進していきます。



当社の事業活動に関連するゴールとターゲット

 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>3.9: 有害化学物質, 並びに大気, 水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。</p>
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>4.4: 技術的・職業的スキルなど, 雇用, 働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。</p>
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>5.B: 女性の能力強化促進のため, ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する。</p>
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>6.3: 汚染の減少, 投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化, 未処理排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の大幅増加により, 水質を改善する。 6.6: 山地, 森林, 湿地, 河川, 帯水層, 湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。</p>
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>7.2: 世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。 7.3: 世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。</p>
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>8.1: 一人当たり経済成長率を持続させる。 8.2: 多様化, 技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。</p>
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>9.4: 資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により, 持続可能性を向上させる。</p>
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>11.6: 大気の質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め, 都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。</p>
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>12.2: 天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。 12.4: 製品ライフサイクルを通じ, 環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し, 人の健康や環境への悪影響を最小化するため, 化学物質や廃棄物の大気, 水, 土壌への放出を大幅に削減する。 12.5: 廃棄物の発生防止, 削減, 再生利用及び再利用により, 廃棄物の発生を大幅に削減する。</p>
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>13.3: 気候変動の緩和, 適応, 影響軽減及び早期警戒に関する教育, 啓発, 人的能力及び制度機能を改善する。</p>
 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>14.1: 海洋ごみや富栄養化を含む, 特に陸上活動による汚染など, あらゆる種類の海洋汚染を防止し, 大幅に削減する。 14.3: あらゆるレベルでの科学的協力の促進などを通じて, 海洋酸性化の影響を最小限化し, 対処する。</p>
 <p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	<p>15.1: 森林, 湿地, 山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全, 回復及び持続可能な利用を確保する。 15.2: あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し, 森林減少を阻止し, 劣化した森林を回復し, 世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる。 15.4: 持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため, 生物多様性を含む山地生態系の保全を確実にを行う。 15.5: 自然生息地の劣化を抑制し, 生物多様性の損失を阻止し, 絶滅危惧種を保護し, また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。</p>
 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>7.17: さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした効果的な公的, 官民, 市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>

ネクスト環境コンサルタント株式会社

環境経営方針

<基本理念>

ネクスト環境コンサルタント株式会社は、環境に係る測定・分析・調査及び排水処理施設の設計・施工その他薬品販売などの事業活動を行っていますが、その過程において、様々な化学物質や電力・化石燃料などを消費し、廃棄物の発生も伴います。環境関連法規等を遵守しつつ、それらの環境負荷を楽しく低減できるしくみを構築運用しながら継続的に改善を進め、さらに、Web等を活用し、事業活動を広く発信することにより、地域全体に広めてまいります。たとえ自らの取組の成果は小さくても、その活動が連鎖的に広まっていけば、やがて大きな削減効果へとつながっていくものと確信しています。環境保全が重要な経営課題であることを認識し、次世代に美しい自然を残せるよう、企業の社会的責任を果たしてまいります。

<行動指針>

- § 地球温暖化防止のため、楽しい節電・省エネの取組を考え、実行します。
- § 環境保全・省エネにつながるサービスの創造を行ないます。
- § お客様や地域の環境負荷の低減につながる提案や情報提供を積極的に行います。
- § 自らが環境関連法規等を遵守することは当然のこととし、さらに理解を深め、その意義を利害関係者へと広めていきます。
- § IT技術を活用し、業務の効率化と信頼性の向上を目指します。
- § 社内の整理整頓を心がけ、身近な環境保全を見失わないようにします。
- § SDGs（持続可能な開発のための2030アジェンダ）を意識しつつ、環境問題を幅広く捉えて、行動していきます。
- § 環境経営システムを定期的に見直し、継続的に改善していきます。



制定日 : 2014年10月1日

最終改定日 : 2020年6月2日

ネクスト環境コンサルタント株式会社

代表取締役 武田誠一郎



2. 組織の概要

2-1. 事業所名及び代表者氏名

- ネクスト環境コンサルタント株式会社
- 代表取締役 武田 誠一郎

2-2. 所在地

- 〒992-0119 山形県米沢市アルカディア1丁目808番地17

2-3. 環境管理責任者及び担当者連絡先

- 環境管理責任者：小西 秀明
- 連絡担当者：菅野 淳
- 連絡先：TEL0238-29-0025 FAX0238-29-0015
- Email：info@next-enviro.co.jp



社屋全景。2階は系列会社の東北警備保障と共用しています。1階は実験室主体で当社が使用しています。2021年2月に増築工事が完了しました。

2-4. 設立年月日

- 2005年（平成17年）4月19日

2-5. 資本金

- 1,000万円

2-6. 事業活動の内容と対象サイト（認証・登録範囲）

- 事業活動の内容：
水質分析，大気測定，土壌・廃棄物分析，微生物検査，作業環境測定，薬品販売，環境コンサルティング業務，排水処理施設・局所排気装置の設計・施工，一般建設業
- 対象サイト：本社ならびに建設工事現場
(その他の営業所等の事業所はありません)

2-7. 事業所の規模

活動規模:売上高 (建設業)	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	千円	175,407 (25,800)	294,282 (24,000)	335,068 (24,000)	308,986 (17,600)	656,362 (18,500)
従業員(対象/全体)	人	19	20	24	23	23
床面積(1, 2階合計)	m ²	350.0	601.8			
床面積(1階部分)	m ²	177.8	302.3			
建設工事实績	件	19件	19件	31件	26件	2件

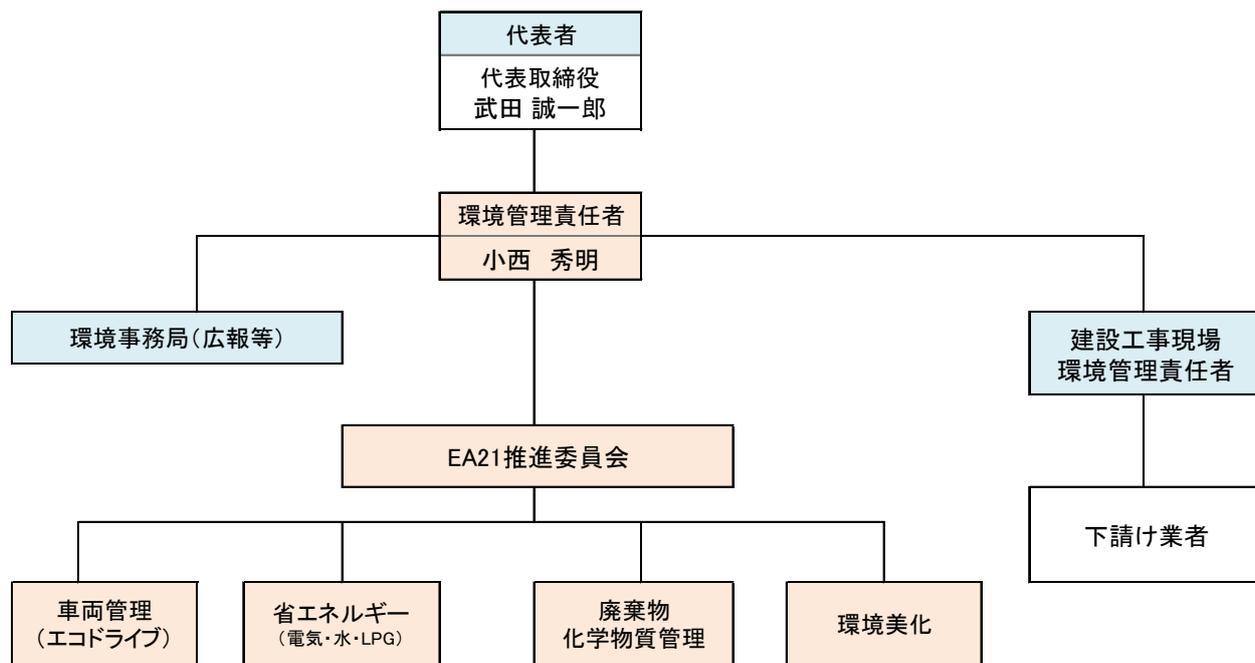
※売上高は当社会計年度(4月～翌年3月)に合わせて集計。2021年度以降、土壌汚染対策関連業務(岩手県内事業所内での分析業務)の売上を含む。2024年度の売上額には、能登での震災処理関係業務の売上げが加わっている。

※従業員数は各年度4月1日時点での在籍人数。

※床面積の内、1階部分は、当社が実験室として使用している。2階部分は東北警備保障と共用している。



2-8. 環境マネジメントシステム実施体制（2025年4月現在）



3. 環境経営目標とその実績



3-1. 環境負荷の現状（2024年度環境負荷自己チェック結果より）

■ 二酸化炭素排出量

※電力使用に係る二酸化炭素排出係数については、東北電力（2022年調整後：0.471）を用いて集計しています。
※電力使用量については、目標管理上、2階分は、すべて東北警備保障が使用したものとみなし、当社では、1階使用分を対象に目標管理していくこととしました。なお、水とLPGは東北警備保障使用分と合算になります。

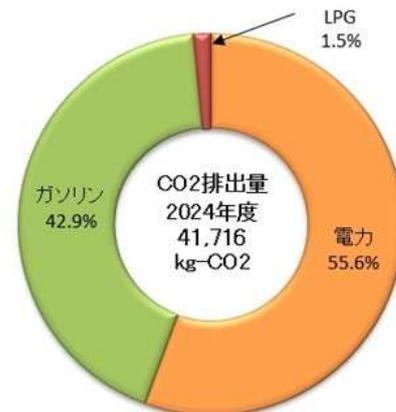
- 1) 当社における2024年度（2024.4～2025.3）のCO₂排出量は合計41,716kg-CO₂となっており、平均的な一般家庭11.6軒分の排出量に相当していました。2023年度に比べ、4.3%減少しました。

※2023年度1世帯あたりの平均年間排出量は3,608kg-CO₂
（出典：温室効果ガスインベントリオフィス）

- 2) 当社から排出されるCO₂の55.6%は電力の使用に伴うもので23,197kg-CO₂、化石燃料の使用に伴うものが44.4%で18,519kg-CO₂となっていました。化石燃料の内訳は、ガソリンが17,909kg-CO₂で42.9%、LPGが610kg-CO₂で1.5%となっていました。2023年度比電力使用量は1.8%減少し、ガソリンは8.2%減少しました。

- 3) ガソリンは、業務あるいは営業車両の運行に伴い消費します。現場サンプリングや営業関係での使用になるため、業務量に比例して増減します。

<二酸化炭素排出源(2024年度)>



4) 電力の月別のCO₂発生量は、8～9月と12～2月に増加する傾向があり、暖冷房による環境負荷であろうと思われませんが、それほど顕著ではありません。暖冷房負荷の他、分析業務使用機器での負荷の割合が大きいものと思われま

5) 以上のことから、車両運行に伴うガソリンの消費や実験室等での電気使用量をいかに減らしていくかが取組の重点課題となります。

<月別二酸化炭素排出量(2024年度)>



■ 廃棄物排出量

1) 一般廃棄物

段ボール類84kg (2023年度比12%減), 可燃ゴミ442kg (2023年度比0.1%減)などを排出しました。前者はリサイクルされますが、後者は分析試料の梱包材などが主でリサイクルは難しいのが現状です。

2) 産業廃棄物 (特別管理産業廃棄物を含む)

重金属 (Cr,Mn) 含有廃液計170kg (2023年度比12%減), Mn廃液181kg (2023年度比9.5%減)を排出しました。この他, 廃ガラス類 (使用済みのサンプリング容器や破損したガラス器具など) を124kg, 廃プラ (ディスプレイ容器等) を202kg, その他不燃物を66kgを排出しました。売上額には必ずしも比例してはいないようです。

3) 建設系産業廃棄物 (特別管理産業廃棄物を含む)

アスコン・コンクリートがらを2,329kg, 木くずを2.1t排出しました。これらは再生骨材として再利用されます。

■ 総排水量 (水使用量)

東北警備保障との合算での集計となります。地下水等の利用はないことから、上水使用量と総排水量は等しく、492m³使用、2023年度から0.2%増加しました。ここ数年, 使用量は安定しています。

■ 化学物質使用量

環境分析業務で使用する試薬類でPRTR法※に該当するものは、アセトニトリル, 二酸化炭素, ノルマルヘキサンなど29物質となっています。(使用量はp10をご覧ください)

※PRTR法 (化学物質排出把握管理促進法) とは、人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が事業所から環境 (大気, 水, 土壌) へ排出される量及び廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を事業者が自ら把握し国に届け出をし、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計・公表する制度です。

3-2. 環境経営目標 (単年度・中期) と達成状況

環境経営方針との整合性を図りながら、環境負荷の自己チェック結果を踏まえ、6項目 (二酸化炭素, 廃棄物, 水, 化学物質, 製品・サービス関連, 地域貢献活動対応項目) について、環境経営目標 (単年度目標&3年間の中期目標) とその達成に向けた活動計画を策定し、取組を行いました。達成状況は次のとおりです。

■ 総二酸化炭素排出量

※二酸化炭素排出係数：0.471（2022年度東北電力調整後）

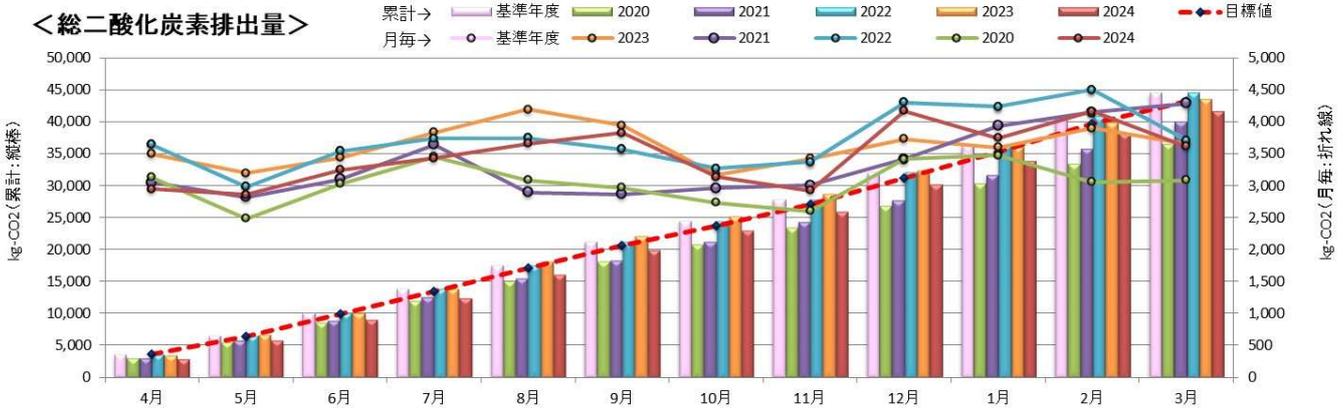
【2024年度目標】売上高あたりのCO₂排出量を2014年度比40%削減

注) 原単位として用いた「売上高」については、本社業務のみを対象とし、土壤汚染対策関連業務、能登地震関連業務、建設業の売上は除きます。(以下同様)

【中期目標(2024~2026)】同上2014年度比42%削減



<総二酸化炭素排出量>



【取組結果】 ※ () 内は売上高100万円あたり

- 2022 (2014) 年度実績：44,605kg-CO₂ (335)
- 2024年度目標：43,267 kg-CO₂ (201)
- 2024年度実績：41,716 kg-CO₂ (136)
- 増減量：-2,889 kg-CO₂ (-199)
- 増減率：-6.5% (-59.3%)

<売上高あたりのCO₂排出量>



目標達成!

【コメント】絶対量、売上高あたりともに、昨年度比で削減できており、特に売上高あたりでは、2014年度比59.3%減と大幅な削減となった。その要因は各項目のコメント欄を参照下さい。

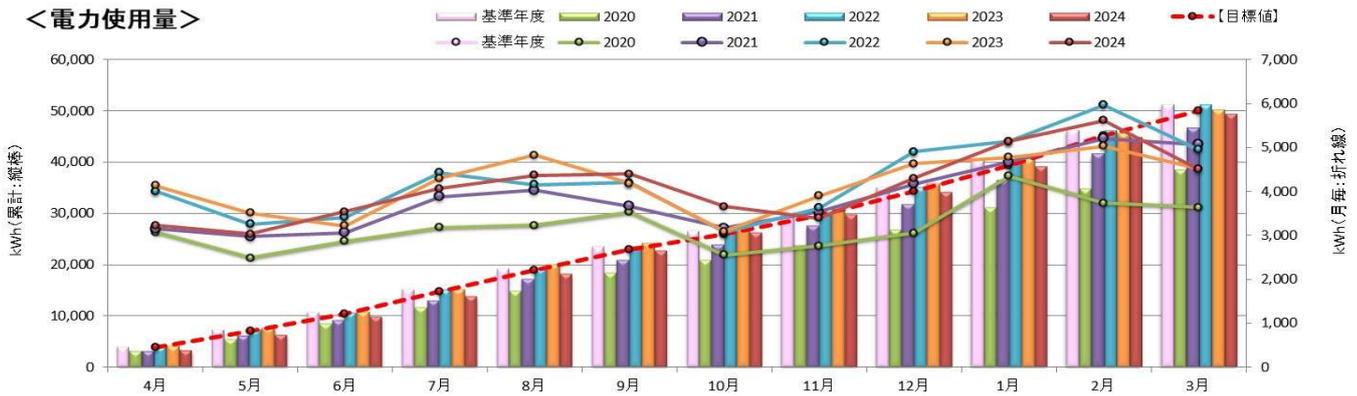
■ 電力使用量

【2024年度目標】売上高あたりの使用量を2014年度比29%削減

【中期目標(2024~2026)】同上2014年度比31%削減



<電力使用量>



【取組結果】 ※ () 内は売上高100万円あたり

- 2022 (2014) 年度実績：51,136kWh (327)
- 2024年度目標：50,113 kWh (232)
- 2024年度実績：49,251 kWh (161)
- 増減量：-1,885 kWh (-166)
- 増減率：-3.7% (-50.7%)

<売上高あたりの電力使用量>



目標達成!

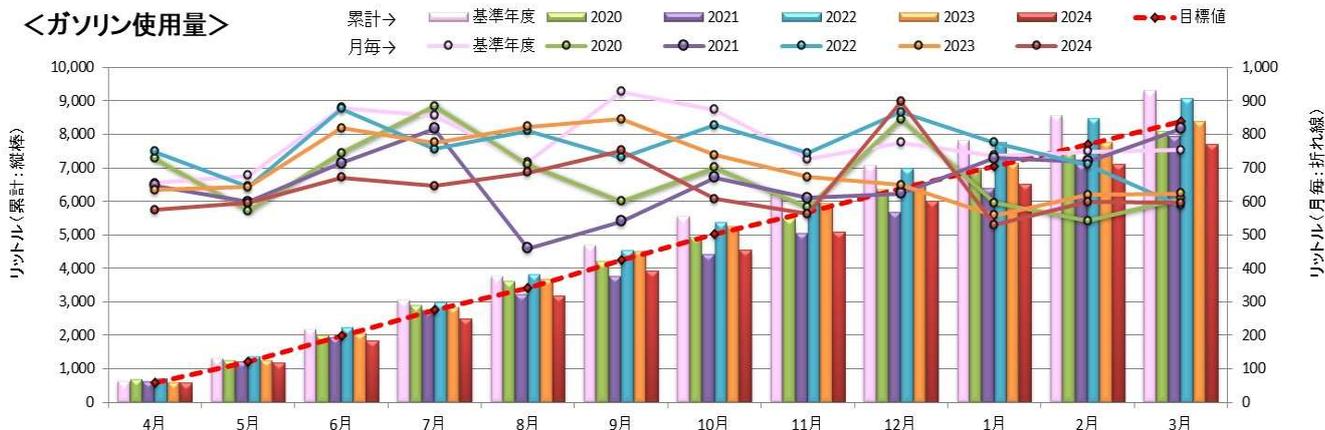
【コメント】夜間運転や業務処理の集約などの業務効率化が電力使用量削減の要因と思われます。厳しい残暑、例年にない大雪だったにも関わらず、削減できたことは大きな成果であると思います。

ガソリン使用量

【2024年度目標】売上高あたりの使用量を2014年度比51%削減
【中期目標(2024~2026)】同上2014年度比53%削減



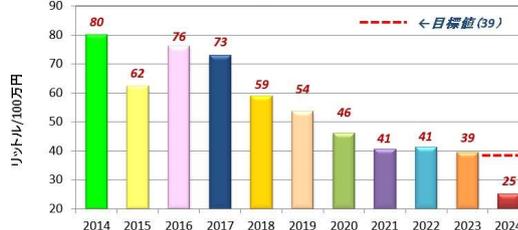
<ガソリン使用量>



【取組結果】 ※ () 内は売上高100万円あたり

- 2019 (2014) 年度実績 : 9,325 ℓ (80)
- 2024年度目標 : 8,393 ℓ (39)
- 2024年度実績 : 7,714 ℓ (25)
- 増減量 : -1,611 ℓ (-55)
- 増減率 : -17.3% (-68.5%)

<売上高あたりのガソリン使用量>



【コメント】 車両の更新やエコドライブの意識の定着に加え、遠方への移動頻度の減少、最短ルートを選定、同一エリアでの業務の集約などの取り組みの成果と考えられます。

ガソリン (燃費)

【2024年度目標】車両燃費を15km/ℓ以上を維持
【中期目標(2024~2026)】車両燃費を15km/ℓ以上を維持



【取組結果】

- 2014年度実績 : 13.2 km/L
- 2024年度目標 : 15 km/L以上
- 2024年度実績 : 13.7 km/L
- 燃費向上量 : +0.5 km/L
- 向上率 : +4.2%

<車両燃費>



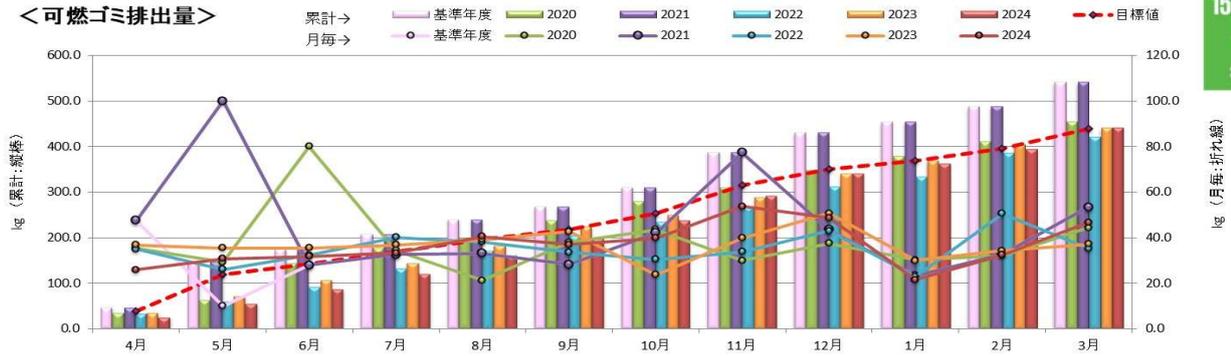
【コメント】 2024年度は、例年になく大雪となり、冬期間において、燃費の低下が顕著でした。ミライースとフィルダーの燃費は比較的良いのですが、プロボックスの燃費は相対的に低いようです。エコドライブの徹底等、ドライバーの意識に頼った燃費向上は、そろそろ限界と思われることから、ハイブリッド商用車の導入も検討しなくてはならない時期にきていると感じます。

エコドライブ自己チェック結果の推移



■ 廃棄物排出量（一般廃棄物）

【2024年度目標】売上高あたりの可燃ごみ排出量を2017年度比35%削減
【中期目標(2024~2026)】同上2017年度比37%削減



【取組結果】※ () 内は売上高100万円あたり

- 2021 (2017) 年度実績：541.5 kg (3.2)
- 2024年度目標：438.6 kg (2.0)
- 2024年度実績：441.7 kg (1.4)
- 増減量：-100 kg (-1.7)
- 増減率：-18.4% (-34.3%)



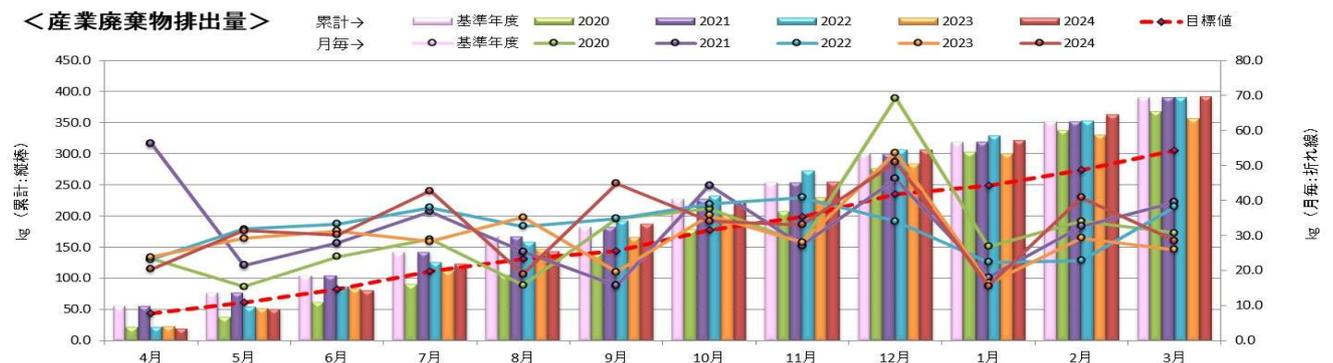
【コメント】 主な可燃ごみは宅配等で届く分析試料の梱包材となっています。依頼件数は年々増加の傾向にあり、再利用できないものも少なくありません。分別の徹底により可燃ゴミの増加を抑えていきます。なお、売上高あたりでは大きく目標を達成しています

■ 廃棄物排出量（産業廃棄物） ※建設産廃を除く

【2024年度目標】売上高あたりの指定産業廃棄物(注) 排出量を2020年度比21%削減

注) 廃プラ、廃ガラス、その他不燃物を対象とします。汚泥・重金属廃液・有機溶剤廃液・廃酸・廃アルカリは分析業務に伴って発生するものなので、数値目標の設定は行わず、定性的な管理を行います。

【中期目標(2024~2026)】 同上2020年度比23%削減



【取組結果】※ () 内は売上高100万円あたり

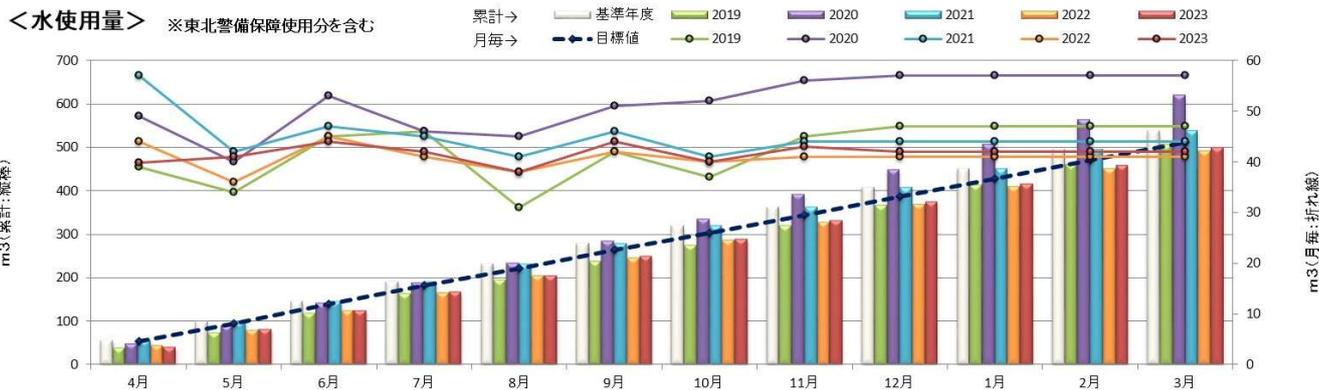
- 2021 (2020) 年度実績：391.7 kg (2.1)
- 2024年度目標：305.5 kg (1.7)
- 2024年度実績：391.8 kg (1.3)
- 増減量：+0.1kg (-0.8)
- 増減率：0.0% (-39.1%)



【コメント】 業務上、どうしてもディスプレイ容器を使用せざるを得ず、その廃棄により、廃プラの排出量が増大してしまいます。排出量の削減はなかなか難しいのが現状です。リサイクルできないか検討中です。

■ 水使用量（総排水量）

【2024年度目標】水道使用量を2021年度比5%削減
【中期目標(2024~2026)】2021年度比5%削減を維持



※12月から翌年4月分までの冬期間（5ヶ月分）は、検針がないため、5月検針値を按分しました。

【取組結果】

- 2021年度実績：539 m³
- 2024年度目標：512 m³
- 2024年度実績：492 m³
- 増減量：-47 m³
- 増減率：-8.7%

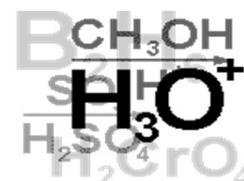
【コメント】東北警備使用分も含めて評価しています。実験器具の洗浄用水以外は、ほぼ生活用水での使用となっています。社員数に大きな変化ないものの、2020年度をピークに連続して減少し、2022年度以降は、ほぼ同水準で推移しています。これ以上の大幅な削減は難しいと判断されることから、この水準を維持していくこととします。



目標達成!

■ 化学物質使用量（PRTR該当化学物質）

【2024年度目標】 該当品リストの作成と使用量の把握と管理
【中期目標(2024~2026)】 同上



号番号	物質名	使用量					単位	号番号	物質名	使用量					単位
		2020	2021	2022	2023	2024				2020	2021	2022	2023	2024	
1	亜鉛の水溶性化合物	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	g	281	トリクロロエチレン	0	0	0	0	0	mL
13	アセトニトリル	110	110	120	320	280	mL	282	トリクロロ酢酸	0	0	0	0	0	g
75	カドミウム及びその化合物	2.4	2.0	1.9	0.1	0.1	g	300	トルエン	0	0	0	0	0	mL
82	銀及びその水溶性化合物	0	0	0	0	0	g	305	鉛化合物	1.2	1.3	1.2	0.12	0.12	g
87	クロム及び三価クロム化合物	1.2	1.2	1.2	0.12	0.12	g	309	ニッケル化合物	1.2	1.2	1.2	0.12	0.12	g
88	六価クロム化合物	1.2	1.2	1.2	0.12	0.12	g	318	二硫化炭素	4.3	4.3	9.8	6.0	12.1	L
113	シマジン	0	0	0	0	0	mL	332	砒素及びその無機化合物	1.2	1.2	1.2	0.12	0.12	g
132	コバルト及びその化合物	1.2	1.2	1.2	0.12	0.12	g	349	フェノール	12	12	12	1.2	1.2	g
150	1,4-ジオキサン	0	0	0	0	0	mL	392	ノルマルヘキサン	69	59	65	80	79	L
186	ジクロロメタン	0	0	0	0	0	mL	400	ベンゼン	0	0	0	0	0	mL
232	N,N-ジメチルホルムアミド	0	0	0	0	0	mL	405	ほう素化合物	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	g
237	水銀及びその化合物	0.16	0.15	0.13	0.12	0.12	g	406	ポリ塩化ビフェニル	0	0	0	0	0	g
239	塩化第二スズ化合物	1.2	1.2	1.2	0	0	g	411	ホルムアルデヒド	0	0	0	0	0	mL
242	セレン及びその化合物	1.2	1.2	1.2	0.12	0.12	g	412	マンガン及びその化合物	1.2	1.2	1.2	0.12	0.12	g
272	銅水溶性塩	1.2	1.2	1.2	0.12	0.12	g								



【コメント】当社で使用しているPRTR該当化学物質29種類をリストアップし、使用量を把握しています。使用量が多い物質はノルマルヘキサンで79ℓ、次いで、二硫化炭素で12.1ℓとなっていました。ノルマルヘキサンは水質分析に、二硫化炭素は作業環境測定の有機溶剤分析に使用しており、廃棄物として移動もしくは大気に放出されます。両者ともに業務量に比例して排出移動量は変動しますが、最小限の使用と適正処理回収に努めます。

■ 自主設定項目（製品・サービス関連）

1) 環境情報の発信・コミュニケーション推進

【2024年度目標】年4回社内報（情報誌）を発行
【中期目標（2024～2026）】同上

実績：4回 業務多忙の中、「NKC通信」をなんとか4回発行できました。社員だけでなく、お客様とのコミュニケーションづくりに活用しています。



目標達成!

ECO エコアクション21
今年も活動中!

環境情報の発信
コミュニケーションの推進
～NKC通信より～

お客様に対して、法令改正の情報や新しい分析機器導入や業務内容の紹介などの情報を積極的に発信しています。

法令
の話

一般排水基準
六価クロム
基準値 改正

2024年4月施行の 一般排水基準改正

項目	新 基準値	旧 基準値
六価クロム	0.2 mg/L	0.5 mg/L

※ 電気めっき業に属する特定事業場には2027年4月より適用

ネクスト
園芸部



・前号で紹介したチューリップが見事に咲きました。

・社屋入口の花壇も今年度分の花々を植えて、設置しています。

会社周辺の美化清掃活動



テルス株式会社様 視察訪問

弊社ではエコアクションの活動の一環として、定期的に弊社の廃棄物の処理・処分を請け負っていただく処理・処分業者様へ視察訪問を行っています。

本年度は9/13に山形県白鷹町のテルス株式会社様へ赴き、処分場を見学してきました。弊社で発生する汚泥等を最終的に処分いただいています。設備がしっかりと管理され、周辺環境にも配慮した運営の様子から、弊社も安心して処分をお任せできると感じました。

グリーンカーテン



2) 採算性の向上(分析内製化による外注費の削減及び機器自動化による労働時間削減)

【2024年度目標】時間当たり限界利益値※
を対前年度比2%増

【中期目標(2024~2026)】対前年度比6%増

※限界利益=(売上高-外注費等変動費)÷総労働時間



【取組結果】

- 2022年度実績: 4,179 円/h
- 2024年度目標: 4,263 円/h
- 2024年度実績: 4,785 円/h
- 増減量: +606 円/h
- 増減率: +14.5%

目標達成!

3) 改善提案 ※環境以外でも可

【2024年度目標】1人毎月1件以上提案

【中期目標(2024~2026)】同上を継続



2024年度実績

142件

目標達成!



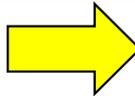
業務改善活動

環境だけでなく、業務の効率化、5S推進、安全衛生、なんでもOK。質より量、とにかく出すことが大切。



ウォーターバスで培地を溶かす作業時、蒸気で火傷しそうになる。

リスクアセスメント
火傷の防止

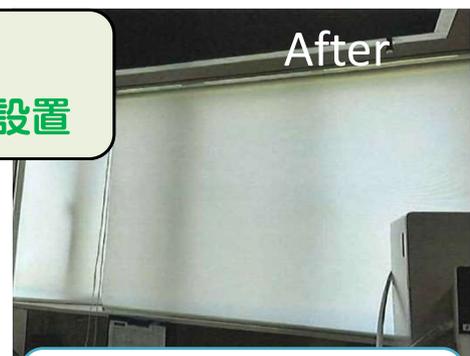
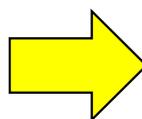


耐熱を着用することにした。



分析室の窓にカーテン等がないので、日差しが入って、エアコンがついているのに暑さを感じ、仕事の効率も下がる。

省エネ対策
ロールカーテンの設置



窓にロールカーテンを取り付けた。エアコンの効きも良くなって、作業効率も上がった。

Before **整理・整頓** **After**

ACアダプタ類のケース収納

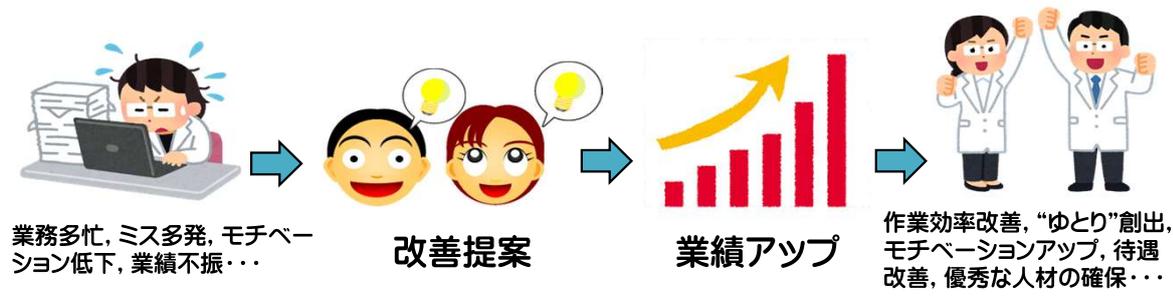
ACアダプタ類の数が多く、どの機器のものか分からなくなったり、コードが絡まってしまうことが頻発。
⇒100均でプラスチックケースを購入し、テプラで見える化して、アダプタ類を収納することにしました。

DXの推進

自動計算フォーマットの作成

Before → **After**

エクセルの報告書様式に計算式を組み込み、自動計算できるようにしました。計算ミスの防止や作業の効率化につながります。



4) ネット受託件数の増加

【2024年度目標】 基準年度受託件数から21%増加

【中期目標(2024~2026)】 基準年度受託件数から30%増加



- 【取組結果】**
- 2022年度実績：325件
 - 2024年度目標：393件
 - 2024年度実績：412件
 - 達成率：127%

3 すべての人に健康と福祉を	6 安全な水とトイレを世界中に	8 働きがいも経済成長も
11 住み続けられるまちづくりを	13 気候変動に具体的な対策を	

「楽しいエコ・儲かるエコ」を進めよう!



■ 地域貢献活動関連

1) 「NPO環境ネットやまがた」主催行事等への参加協力

【2024年度目標】年2回以上 【中期目標(2024~2026)】年2回以上

2) 会社周辺の清掃・美化活動(草取り・ごみ拾い・みどりのカーテン等)
年2回(6月, 10月)



「山形県地球温暖化対策推進事業所登録制度」への登録など、NPO環境ネットやまがた(山形県地球温暖化防止活動推進センター)が主催する事業への参加協力しています。また、毎年、みどりのカーテンや植栽を行い、年2回、会社周辺の清掃活動などを実施しています。



高校生がやってきた!

- 米沢工業: インターンシップ
- 米沢商業: 職場見学ツアー



守体性から主体性への変革研修



社員向け金融関係セミナー



初期火災訓練

教育・訓練も抜かなく...



日環協 東北支部
技術研修会 @福島

3-3. 2025年度の環境経営目標

環境目標項目	基準年	実績値	環境目標 (2025年4月～2026年3月まで)		備考	
			環境目標の内容	目標値		
二酸化炭素排出量	■総二酸化炭素排出量	2014	335 kg-CO2 /100万円	売上百万円あたりの排出量を 基準年度実績値から63%削減	124 kg-CO2 /100万円	単位: kg-CO2/売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする
	■電力使用	2014	327 kWh /100万円	売上百万円あたりの使用量を 基準年度実績値から55%削減	147 kWh /100万円	単位: kWh/売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする
	■化石燃料消費					
	ガソリン ※製品・サービス 関連目標	2014	80 リットル /100万円	売上百万円あたりの使用量を 基準年度実績値から70%削減	24 リットル /100万円	単位: リットル/売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする
		2014	13.2 km/L	車両燃費: 14km/L以上	14.0 km/L	単位: km/L
排出廃棄物	■一般廃棄物 (対象: 可燃ごみ)	2017	3.2 kg /100万円	売上百万円あたりの排出量を 基準年度実績値から60%削減	1.3 kg /100万円	単位: kg/売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする
	■産業廃棄物	2020	2.1 kg /100万円	売上百万円あたりの排出量を 基準年度実績値から40%削減	1.26 kg /100万円	単位: kg/売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする ※汚泥・重金属廃液・有機溶剤廃液・廃酸・廃アルカリは対象外
水総量排	■上水使用量	2021	539 m ³	水道使用量を 基準年度実績値から5%(維持)	512 m ³	単位: m ³ ※東北警備使用分も含める
物化学質	■化学物質 (PRTR該当)	—	—	薬品管理規程に基づく適正管理	—	長期的にはPRTR該当物質を使用しない方向で進める
(製品自主サービス項目関連)	■環境情報の発信			社内報の発行	4回	A4両面刷り1枚程度を想定
	■採算性の向上 「分析内製化による外注費の削減及び機器自動化による労働時間削減」	2022	4,179 円/h	「時間当たり限界利益値※」を 基準年度比16%増	4,848 円/h	※限界利益＝ (売上高—外注費等変動費) ÷総労働時間 ※2022年度実績は労働者数の 増加分を補正
	■改善提案件数	—	—	1人毎月1件以上	月1件以上	※環境に限らずなんでもOK
	■ネット売上額の増加	2022	325 件	基準年度受託件数から30%増	423 件	単位: 件数 「産廃・土壌ドットコム対象」
地域貢献活動	■環境保護団体への支援・協力	—	—	「NPO環境ネットやまがた」 が主催する行事等への協力	—	参加状況を記録(環境教育)
		—	—	環境関連団体等が主催する イベント・研修会等への参加	年2回 以上	
	■会社周辺の清掃活動・美化活動	—	—	会社周辺のゴミ拾い (グリーンカーテン)	6月、10月 (夏季)	社内報等で紹介する

祝 エコアクション21認証取得10周年の感謝状をいただきました!



2014年12月に認証登録を受けてから10年になるのを記念して、地域事務局であるNPO法人環境ネットやまがた様より、感謝状をいただきました。また、合わせて行われたフォローアップセミナーでは、当社の取組みを環境管理責任者の小西が堂々発表しました。





4. 環境経営計画の取組結果並びに次年度の取組内容

4-1. 2024年度環境経営計画と取組結果

<評価判定の目安>

○…実施済。80%以上の社員が取組んでいる。80点以上の満足度である。

△…一部未実施。50~80%の社員が取組んでいる。50~80点ぐらいの満足度である。

×…未実施。50%未満の社員しか取組んでいない。50点未満の満足度である。(是正処置の対象)

環境目標	活動・取組項目	活動の具体的内容 (どのように)	4~7月	8~9月	10~12月	1~3月	備考、是正処置の必要性等	
二酸化炭素排出量の削減	消費電力の削減	室温は、暖房期20℃、冷房期28℃で管理	—	○	—	○		
		サーキュレーターを稼働させ、室内温度差をなくす	—	○	—	○		
		使用していない部屋のエアコンはOFF	—	○	—	○		
		定期的にエアコンのフィルターを清掃	○	—	○	—		
		エアコンを使用しない時期はブレーカーを切る(コンセントを抜く)	○	—	○	—		
		不要な照明は消灯	○	○	○	○		
		クールビズの推進(Tシャツ・ポロシャツ着用)	—	○	—	—		
		ウォームビズの推進(プラス一枚で暖かく)	—	—	○	○		
	消費電力の削減	パソコンは省エネモードで使用	○	○	○	○		
		トイレの暖房便座の使用禁止(温水の温度設定は「低」)	○	○	—	—		
		電力使用量の掲示(「見える化」の推進)	—	—	—	○	掲示板	
		分析機器の効率運転(ウォームアップ時間の短縮・タイマー利用)	○	○	○	○		
		分析条件の見直し(前処理温度、処理時間等)	○	○	○	○		
		直射日光を遮る工夫(ブラインド)	○	○	○	○		
	ガソリン・軽油使用量の削減 ※製品・サービス関連目標	直射日光を遮る工夫(緑のカーテン)	○	○	○	—		
		エコドライブの教育研修	—	—	○	—	可能であれば実地研修	
		エコドライブ自己評価を実施(チェック表による)	○	○	○	○		
		燃費・走行距離の把握(車両日報の記入)	○	○	○	○		
		5000km(6ヶ月)ごとにオイル交換、10000km(1年)ごとにエレメント交換	○	○	○	○		
		適切な時期でのタイヤ交換	○	—	○	—		
		適切な空気圧の維持	○	○	○	○		
		エコタイヤの導入	○	○	○	○		
	その他化石燃料の削減(LPG)	不要な荷物を乗せたままにしない	○	○	○	○		
		業務の効率化(車両運行ルート管理)	○	○	○	○		
		計画的な低燃費車両への入れ替え	—	—	—	—		
		必要最低限の温度で給湯	○	○	○	○		
	廃棄物削減と適正管理	一般廃棄物の削減(リサイクルの推進)	夏期は使用しない(ガスの元栓を締める)	—	○	—	—	
			分別のルール周知徹底	○	○	○	○	
不要な資料・カタログ等の辞退・返却			○	○	○	○		
コピー用紙削減(両面コピー・裏紙利用の徹底)			○	○	○	○		
産業廃棄物の適正管理		一般廃棄物の排出量記録	○	○	○	○		
		社内の整理整頓	○	○	○	○		
		保管場所の管理(安全衛生状態も含む)	○	○	○	○		
		実験室廃液等の廃棄保管ルールの周知・運用管理	○	○	○	○		
		manifests・契約書類の管理	○	○	○	○		
		委託先の状況確認	—	○	—	—	未確認委託先を対象	
水使用量管理	水道使用量の削減	重金属廃液量の削減方法の検討と試行	○	○	○	○	継続的に検討中	
		「節水」の監視強化	○	○	○	○		
化学物質管理	化学物質の適正管理	その他節水対策機器に関する情報収集	○	○	○	○		
		SDSの整備と活用(電子版でも可)	○	○	○	○		
		主にPRTR該当化学物質の適正利用基準の管理運用	○	○	○	○		
	不要薬品類の撤去	化学物質を使用しない分析方法の検討	○	○	○	○	継続して情報収集	
グリーン購入	グリーン購入	毒劇物の適正管理(使用量の把握と残量確認)	○	○	○	○		
		不要薬品類の選別と撤去(処理業者への引き渡し)	—	—	—	○		
		グリーン購入ネットワーク(GPN)認定商品(エコ商品)の選定	○	○	○	○		
		事務消耗品のエコ商品購入率の把握	○	○	○	○		
		車両・設備・機械等購入時の環境配慮	○	○	○	○		

(製品サービス関連) 自主設定項目	■社員のスキルアップ	■技術研修会の情報収集	○	○	○	○	
		■研修成果報告会等の実施	○	○	○	○	
		■業界団体が実施する精度管理事業への参加と目標水準の維持	—	—	—	○	
	■環境情報の発信 (社内報の発行等)	■情報の収集・原稿等の依頼(社内・社外)	○	○	○	○	
		■社内報の発行	○	○	○	○	
		■自社HP等の更新	○	○	○	○	
	■採算性の向上	■外注業務の削減(分析内製化の推進)	○	○	○	○	
		■残業時間の削減(ノー残業デー)	○	○	○	○	
		■分析機器の自動化推進	○	○	○	○	
		■分析業務の多能工化	○	○	○	○	
	■改善提案件数の増加	■毎月1件以上の改善案の提出	○	○	○	○	
		■表彰制度の創設	○	○	○	○	
		■提案の実行とさらなる改善	○	○	○	○	
	■ネット売上額の増加 (産廃・土壌ドットコム)	■ネット検索件数チェックとHP内容の見直し	○	○	○	○	
		■ネット広告(PPC広告)の適切な運用と改善	○	○	○	○	
■定期顧客への訪問による新規分析案件の拡充		○	○	○	○		
地域貢献活動	■環境保護団体への協力	■「環境ネットやまがた」主催の活動・セミナーへの参加	○	○	○	○	
	■会社周辺の清掃活動	■周辺道路のごみ拾い、草刈りなどの実施	○	—	○	—	
	■敷地内緑化の推進	■フラワーポットに花を植える	○	○	—	—	

認証取得以降10年目の節目を迎え省エネやゴミの分別の取組に関しては、ほぼ定着しています。また、業務多忙が続く中、環境情報の発信（社内報発行：年4回）や新規取組として設定した改善提案についても、様々な改善提案が提出され、業務の効率化だけでなく、モチベーションアップにも役立っています。

4-2. 2025年度以降の取組内容

2024年度の取組を継続するとともに、自主設定項目として設定した「採算性の向上」, 「改善提案件数の増加」, 「ネット受託件数の増加」の取組について、経営上の課題とチャンスを意識しつつ、さらに強化を図っていきます。また、世の中の動きに合わせて、RE100電源への切り替えやSBT（中小企業版）の認証取得などについて、情報収集に努めていきます。

5. 環境関連法規等の遵守状況、訴訟等の有無



5-1. 該当する環境関連法規等とその遵守状況

2025年6月20日付で遵守状況を確認した結果は、下記のとおりでした。

■廃棄物処理法

マニフェスト管理ならびに実績報告等、遵守状況に問題はありませんでした。

(2024年度のマニフェスト発行実績については、2025年5月22日に報告済)

■フロン排出抑制法

業務用エアコン・冷蔵庫等対象機器について、3カ月ごとの簡易点検を実施し、記録しています。また、増改築に伴い新たな対象設備機器類のリストアップを行いました。今後適切に管理を行っていきます。

■水質汚濁防止法（特定施設：スクラバー・流し台） ■下水道法

事故等の発生はありませんでした。また、放流水については月1回水質検査を実施して異常の有無を監視しています。

■毒劇物取締法

紛失防止措置等の要求事項に問題はありませんでした。事故等の発生もありません。

5-2. 訴訟等の有無

環境面での訴訟、行政処分等は、創業以来一度もありません。
また、外部からの環境に関する苦情も創業以来、一度もありません。

6. 代表者による見直しの結果（経営者のコメント）



2020年度から経営の本質に関連する目標として、「採算性の向上」、「改善提案件数」、「ネット売上額」を加え、6年目となりました。採算性については、本業の売上げが好調だったこともあり、14.5%の増加となり、十分に目標達成となりました。改善提案についても本レポート上で紹介しているとおり、大変有効に機能しており、ネット売上額についても、目標達成率127%となり、十分に満足できる結果となりました。また、取組のもう一つの柱と位置付けている環境コミュニケーションの推進（社内報の発行）については、業務多忙の中、予定通り4回発行することができました。当社の取組みを外部にアピールするとともに企業価値の向上につながっているものと思っています。

2024年度の売上額（本社のみ）は、前年度比で大幅に増加（44%）しているにもかかわらず、二酸化炭素排出量は6.5%減少することができました。数々の改善提案など業務の効率化と従業員のスキルアップの成果であると大いに評価したいと思います。今後も分析業務の内製化、外注経費の削減、分析の自動化などを推進すると同時に、待遇改善、働き方改革の推進により、従業員のモチベーションアップにつながるような取組みも進めていかなければならないと思っています。



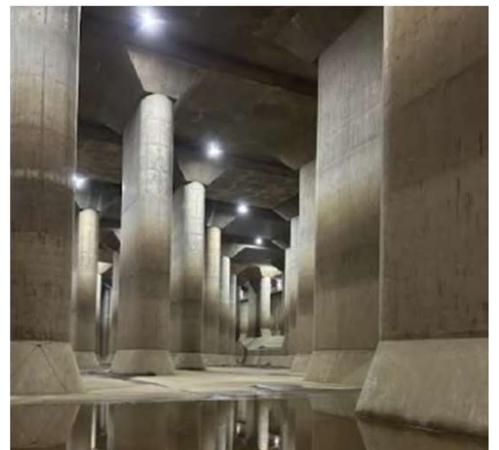
私たちの仕事は、お客様の環境管理のお手伝いする仕事であり、「正確な情報をなるべく安価かつ迅速に提供する」ことが社会的な使命と考えています。業務量が増加して、エネルギー消費が増加することは、ある程度、やむを得ないこととして、その分、お客様の環境負荷やリスクの削減につながるような情報を積極的に発信していきます。地域の環境保全に貢献していることを自負しながら、仕事も省エネも「楽しく」をモットーにエコアクション21の活動を継続してまいります。

令和7年7月1日

代表取締役 武田誠一郎

<EA21環境経営システム変更の必要性と主な変更指示内容>

- 環境経営方針：継続
- 環境経営目標：取組項目については現状維持でよい。基準年度ならびに削減率などについては、昨年度の実績などを踏まえ、適宜見直すこと。
- 環境経営計画：基本的には継続で良いが、より実効性の高い内容に適宜入れ替えること。
- 実施体制：継続（人事異動等があれば適宜変更すること）
- その他：同じ建物に同居する東北警備保障と連携して、効果的な取組みを推進すること。地域貢献活動関連目標としてSDGsを意識して環境NPOの支援と協力の強化を図ること。経営効率を上げ、売上高あたりでの目標の達成を目指すこと。また、計画的に環境教育を実施すること。



2024. 4の研修旅行で行った春日部市にある「首都圏外郭放水路」。まるで「パルテノン神殿」のようでした。（長さ177m,幅78m,高さ18m）



®環境省

エコアクション21

認証番号0010347



「楽しいエコ・儲かるエコ」
を進めよう！

<アクセス>



この環境経営レポートは、ご希望の方に差し上げています。ご希望の方は、弊社窓口でお申し出いただくか、下記宛ご連絡下さい。また、当社HP (<http://www.next-enviro.co.jp>)、エコアクション21中央事務局のHP (<http://www.ea21.jp>)でもご覧いただけます。

〒992-0119 山形県米沢市アルカディア1丁目808番地17
ネクスト環境コンサルタント株式会社
TEL : 0238-29-0025 FAX : 0238-29-0015

